ハンガリー乳児保育園における保育士の専門性

ー 保育内容と保育士養成課程をもとに ー

中　塚　良　子

松山東雲短期大学

Specialization of Infant and Early Childhood Educator in Hungary

− Based on Childcare Contents and Nursery Teacher Training Course −

Ryoko NAKATSUKA

Matsuyama Shinonome Junior College
Kuwabara, Matsuyama
(Received Jan. 20, 2023)

Summary

In this paper, I will read and understand the content of childcare and the training of Infant and Early Childhood Educator in Hungary, which is recognized as a specialist in infant care, from documents such as the Hungarian “Infant Nursery School Basic Program” and “Child Protection Law.” Comparing the Hungarian guidelines and the Japanese nursery school childcare guidelines, at first glance it seems that there is not a big difference in the descriptions, but I think there is a big difference in quality assurance, supervision and practice at the national level. In Japan, there are many kindergartens that do not practice what is indicated in the guidelines. The background that it is the difference of the country where it has been done cannot be ignored. I would like to contribute to ensuring the quality of childcare in Japan by referring to Hungary’s way of training nursery teachers.

はじめに

日本の乳児保育において「育児担当制」が普及した経緯として，ハンガリーの保育を研究する羽仁協子らの「コダーイ芸術研究所」があげられる。子どもたちとの愛着をはぐくむ上で，特定の大人とかかわることが子どもの心の安定を築くために重要であり，日本においても乳児保育実践のなかで導入されているが，配置人数，面積，保育士の専門性などの違いにより，ハンガリーのそれとは異なる状況に置かれていたり，そもそも乳児を「一斉に」保育したりしようとする向きが未だにあることは否めない。

筆者は2017年，ハンガリーに私立保育園連盟を通して視察に行き，乳児保育・幼児保育の保育士養成はそれぞれ別の専門性を持ったものとし，資格が異なることを知った。実際に乳児保育では，穏やかに「流れる日課」が言葉の通り行われており，幼児保育では「課業」といった幼児期の発達に必要なプロ

グラムを立て，保育する場面を見ることができた。加えて，質疑応答ではさまざまな保育士に質問することができたが，誰もが自分の保育を語ることばを持っており，保育についての質問に対し，自らの思いや保育のねらいを語っていた。さらにハンガリーの保育所はほとんどが公立であり，保育職の専門性に対して社会的認知も高いという。以上のような，ハンガリーの保育士の専門性の高さは国の保育プログラムや保育士養成の制度にあることが質疑応答から判明した。

本稿では，乳児保育の専門性が認められているハンガリーにおける保育内容や保育士養成について，ハンガリーの「乳児保育園基本プログラム」「児童保護に関する法律」等の文書から読み解いていく。ハンガリーの指針と日本の「保育所保育指針」(2017)（以下、保育指針）を対比すると，一見，記載に大きな差はないと感じられるが，国レベルで質の保障，統括，実践がされていることに大きな差があると考える。日本においては指針において示されていることが実践されていない園も多くあり，その理由として社会主義としての歴史を経て保育を行っている国と，戦後民主主義の中で自由に私立保育園が創造されてきた国の違いであるという背景も無視できない。ハンガリーの保育士養成のあり方を参考にし，日本における保育の質の保障にも寄与していきたい。

第１章．ハンガリーの保育制度とその歴史

Marta Korintus（2008）によると，ハンガリーの歴史上，最初の幼稚園は1828年に，貧しい子どもを保護するために設立された。「nevelés」（育成）と言われ，「愛情のある関係を築き，良い模範を示し，歌うことによって，スキルと感情」をはぐくむことを目的としていた。一方保育所は，1852年，ペストに開設され，働く母親の子どもを預かる施設であった。働く母親は，早朝に子どもを保育園に預け，子どもたちは保育所で入浴したり，食事をとったり，遊んだりする。保育所は子どもの保護とともに，家族支援に取り組む，当時としては近代的なものであった[1]。

第二次世界大戦後から1989年までは社会主義のもと，幼児教育･保育ともに国家に中央集権化された。女性の就業率は90％を超えた時期もあり，乳児保育園（Bölcsőde）が発展し始めた[2]。一方で，1960年代には育児休業と育児手当が子どもの３歳の誕生日まで利用できるようになった。その結果，ほとんどの育児は家庭でなされたため，乳児保育園の需要と数は低かった。乳児保育園と幼児保育園（óvoda）における国の指針は，それぞれ1954年と1953年に発行された。乳児保育園と幼児保育園は，別の管轄の下にあったが，保護者の労働時間中に子どもの保育を行うという考えは同じであった。従来，３歳未満の子どもの保育は保健省が担当し，３歳から６歳までの子どもは人材省が担当していた[3]。ソ連からの影響が強くあったため，戦後ソ連で主流であった「集団主義」がハンガリーの保育にも少なからず影響を及ぼしたが，それに対し疑問を呈す声が上がり，ハンガリー独自の保育プログラムが作成された。しかし，社会主義であったことにより，国全体で保育内容や専門性が均一に近いものになった[4]。

1989年，社会主義が終焉し，地方分権化が行われた。保育分野は政府の３層システム（国，郡，および地方自治体）の中で，郡および地方自治体に置かれ，地方自治体を通じて幼児関連の補助金を提供している。関係省庁は法的枠組みを整備し，行政のシステムは法令順守を保証し，監査を行っている[5]。省庁も統一され，現在は幼児保育園・乳児保育園共に人材省（Emberi Erőforrások Minisztériuma: EMMI）が管轄となっている。

第２章．ハンガリーの乳児保育園と「乳児保育園基本プログラム」

以上のような歴史的，制度的背景をふまえ，ハンガリーにおける保育の体系とその内容について触れ

る。なお，ハンガリー語から日本語への翻訳とその解釈は，くるみの木教育研究所の翻訳[6]に基づいて行った。

保護者の就労などにより，生後20週～３歳未満の子どもが通う乳児保育園は，一般的な保育園，小規模保育園，職場保育園やデイケアサービスなどがある。乳児保育園と小規模保育園に関しては，公的な保育を提供する機関になっており，運営は「乳児保育園の基本プログラム」に沿ってなされている。ここではそのプログラムの中身からハンガリーの保育の特性について述べていく。ハンガリーの乳児保育の基盤となるのが，国の乳児教育プログラムである「乳児保育園の基本プログラム（A bölcsődei nevelés-gondozás országos alapprogramja）」[7]である。内容は大まかに，1.はじめに，2.保育の目標，3.保育の基本原則，４．保育の課題，５．保育の主な領域，６．保育所保育の具体的な実施条件，７．家庭支援の方法，８．保育所以外の保育事業，９．保育に関連する家庭支援サービス，10．保育記録[8]の10章構成である。

まず,「３．の保育園教育の基本理念」を次に示す。

「３．保育園教育の基本理念」

３．１．家族への体系的なアプローチ…家族の生活の質の向上に貢献する。

３．２．発達に関する早期介入アプローチ

…子どもの発達の遅れや停滞について提示することが必要である。

３．３．家庭教育の尊重…家庭教育の価値，伝統，慣習を尊重しすることにより，保育をおこなう。家庭が積極的に参加しやすいことも重要である。

３．４．幼児の人格の尊重

…子どもの基本的権利を尊重しながら，個人的，社会的，認知的能力の発達を助け，子どもの人格を完全に発達させることを目的としている。民族的，文化的，宗教的，言語的，性別，および身体的および精神的能力の違いに対する意識を寛容的にはぐくむことに注意を払う必要がある。

３．５．保育士の専門性とその役割

…保育士自身のパーソナリティが子どもに与える影響を鑑み，知識，社会的スキル等高い水準で行うため，保育士は自己研鑽への責任がある。

３．６．安全と安定の創造

３．７．グラデーション

…子どもが新しい状況に適応するために適切な段階移行を図ることが必要である。

３．８．一人ひとりへの保育に関する検証

…心理的状態・発達・国籍・文化・宗教を考慮に入れた個々の発達ニーズに合った保育がなされているかを検証しながら保育を勧めることが必要である。

３．９．専門的な養育の重要性

…生理的欲求を満たすことでより高次の欲求を生み出すことにつながる。

３．10．子どもの力を発揮するための土台

…認知的，情緒的，社会的能力の確立に向けた知識・経験・自発性に関する適切な保育を行う。

「保育園教育の基本理念」「A bölcsődei nevelés-gondozás országos alapprogramja（全国保育基本計画）2020.」をもとに筆者訳

先述の通り，育児休業と育児手当のために，３歳未満の子どもは母親が就労しているという条件以外では家庭で養育されていた。乳児保育園は原則，朝の６時から夕方の６時まで開園し，朝ごはんから園でとる子どもが少なくない。このような背景から，義務教育化された幼児保育園と比較しても乳児保育園において「家族の生活の質の向上に貢献」といった項目が冒頭におかれることは自然であろう。「乳児保育園基本プログラム」の根拠法は，「国連人権宣言」や「国連児童憲章」があり，特に多民族国家[(1)]であるハンガリーにおいては，国籍・文化・宗教といった個々人の配慮については重要事項である。日本の保育指針においては乳児の記述が充実されたが，３歳未満に関する事項と３歳以上に関する事項が同一指針の中に含まれていることにより，保育士

の内容理解がより困難なものになっている。

「３．２．発達に関する早期介入アプローチ」では，子どもの発達の遅れや停滞を提示することが明記されているが，ハンガリーの教育制度において，発達障害を抱える子どもたちに対しての教育支援がきめ細かく規定されている。就学前教育とされる幼児保育園においては言語聴覚士や理学療法士などが保育に関わるなど，障害のある子どもに対するサポート体制も充実している。早期介入について，専門委員会（心理学者や障害の種類に応じた専門家により全国的に組織されたもの）が，早期のケアについて提案を行う。幼児保育園の入園や早期の発達支援，ケアセンターなどへの入園が保護者により決定される[9]。幼児保育園においては「特別支援児の幼児保育園教育ガイドライン」に沿って教育プログラムが作成され，全国における教育ニーズの一貫性をもたせるよう図っている。なお，幼児保育園の最終年度には，義務教育の延期（Tankötelezetség halasztása）が可能である[10]。保護者が申請することによって，就学前教育に１年留まることを選択することができる。例えば，早生まれの子どもがあえて１年就学を遅らせるなど，子どもの発達が就学にふさわしいかなどを勘案して決定される。マイナスイメージではなく，あえて１年遅らせることを希望する保護者も少なくない[11]。

次に，「３．５．保育士の専門性とその役割」について，日本の保育指針において「保育士の資質能力向上」と記されているものと同様の事項である。しかしハンガリーの保育士資質能力向上の点で注目したいのは，就職後も定められた研修時間があることである。３歳未満の保育を行う乳幼児保育士（Infant and small child teacher）は，大学卒業後２年間の研修を行う。その間にはメンター（より経験が豊富な同僚）がサポートにつき，研修を行い，それから無期契約の雇用に移行する。詳細は第４章で述べる。

「３．６．安全と安定の創造」では，子どもたちの心身の安全について触れられており，セキュリティや物質的な安全だけでなく，親子関係や保護者と園との関係性が連続的に保障されることによって，子どもたちの心の安定も得ることができる点について記されている。これは次項で触れる「慣れ保育」などにもみられる記述で，保育園と家庭との連携や信頼関係が子どもに及ぼす影響を明確に示し，家庭支援は子どもの精神的安定の基礎となる部分が強調されている。

「３．７．グラデーション」では，保育園においてあらゆる変更が行われた際に，新しい状況に徐々に適応できるような配慮が必要であることが記されている。変化が子どもたちにとってグラデーションのようになることによって，変化を受け入れ，新しいことや状況を知り，新たな習慣を身につけると考えられている。

「３．９．専門的な保育（養育）の重要性」は，乳児保育と幼児保育の専門性が異なるとされている点があらわれている。ハンガリーの乳児保育においては「担当制」（詳細は第３章で述べる）がとられ，子どもたちとの愛着関係を築くこと，子どもたちの生活の安定を図ることが第一に位置づけられている。その専門的な保育を行うにあたり，乳児保育の専門性を養成課程から身に着けた保育士の存在は必要不可欠である。この専門性に関しては，「３．10．子どもの力を発揮するための土台」にも関連する。乳児の発達特性を十分にとらえたうえで，子どもたちにとって必要な経験や環境を考え，構成していくことが保育士にとって重要な仕事となる。

これら「保育園教育の基本理念」は，日本の保育指針「保育所保育の基本原則」にあたるものである。ハンガリーの保育の特徴が表れている部分もありつつ，全体を見たときに記載内容に大きな差はないように感じられるが，これらが国レベルで質の保障，統括，実践がされていることに大きな差があると考える。日本においては指針において示されていることが実践されていない園も多くあり，その理由として戦後民主主義の中で自由に私立保育園が創造されてきたことがあげられる。社会主義としての歴史を

経て保育を行っている国との違いであるという背景も無視できない。ハンガリーでは質の保障について，教師，機関の長，教育機関の評価を，全国的な教育専門家検査システムを導入しおこなっている[12]。

第３章．保育の具体的な実施条件

次に，保育内容について示された「保育の具体的な実施条件」を示す。

「６．保育の具体的な実施条件」

６．１．担当制…子どもたちの安全・安定を原則とした制度。保育園にいる間は，ひとりの子どもに対して特定の保育士が担当を担い，保育記録等の文書の作成などの責任を負う。

６．２．クラスの編成…クラス編成は法律で定められており，規定数を超える人数は受け入れられない。保育園に通う全期間，同じクラスの子どもと過ごすが，異年齢・同年齢どちらのクラス編成もある。異年齢保育では，子どもの個人差が顕著には表れないという利点がある。

６．３．物的環境…建物，遊び場，保育施設等は安全であり，保育・教育上役立つよう設計されなければならない

６．４．日課…計画的かつ継続的でありながら柔軟な日課は，幼児の要求に対する満足感や，見通しをもって穏やかに過ごすことを可能にする。それが安心感，見通しを持つこと，主体的な活動，自立を可能にするのである。子どもたちにとって不要な待ち時間が排除されるよう，子どもたちが予測しながら行動できるような明確な日課が必要である。このような日課は，クラスの穏やかさにも良い影響を与える。このような日課は，子どもたちの年齢構成や発達によって異なるが，季節や天候，クラスの規模などに影響されるが，保育士同士の連携，家庭生活への配慮，子どもの生活リズムが考慮される。

「保育の具体的な実施条件」「A bölcsődei nevelés-gondozás országos alapprogramja（全国保育基本計画）2020.（1）.」をもとに筆者訳

ここでは，「流れる日課（Napirend）」「担当制（„Saját gondozónő”-rendszer）」についても触れられ，ハンガリーで長年培われた乳児の安心・安全を保障する具体的な保育実施要件が記されている。

サライ（2014）は担当制の意義として「育児の場面で，同じ人が同じようにかかわってくれることで，子どもは先を読み取り，安心して任せ，自分の行為に向かうことができる」[13]と説明している。筆者が視察に行った「マイバ乳児保育園」では，排泄，着脱，食事等の場面において，子どもたちが先の行動を見通しながら，自発的に行動する姿が見られた。保育士の語り掛けはどれも穏やかで，大きな声を出したり，子どもを注意したりする場面は見られなかった。表現を変えるのであれば，子ども自身が注意を向けるような表現を用いており，子どもたちが気付き，行動に移す姿は多くあった。これは「流れる日課」と呼ばれ，毎日同じことを丁寧に繰り返していくことで子ども自身が見通しをもって安心して生活を送ることができるようになるための取り組みである。日本の保育園においても担当制や「緩やかな担当制」をとっている園も少なくないが，長い開園時間や複雑なシフト制勤務，またはその他の困難により，「担当制」と「流れる日課」の再現が難しい点もある。しかし，子どもたちが特定の大人を通し徐々に他の人や環境に慣れ，世界を広げていくことについては保育指針の中でも記されており，またその効果も認められている。

筆者が視察に行った時期は11月で，ハンガリーの年度の始まりが９月であることを考えると，入園してわずか２か月の子どもたちが見通しをもって活動していることになる。ここで不可欠なのが，「慣らし保育（Beszoktatás (adaptáció) – szülővel történő fokozatos beszoktatás）」である。前章で触れた「グラデーション」の原則がここでも実践されており，２週間かけて保護者の協力を得ながら，「新しい場

所のどこで何ができるのか，どこに何があるのかを子どもに教えてくれるのはお母さん」[14]という状況で，子どもたちが新しい環境になれる期間を多く設けている。この期間に保育士は保護者のかかわり方を把握し，子どもたちが安心した状態で遊ぶ姿を見て，保育の参考にすることもできるのである。

次に，「６．２．クラスの編成」において示されているクラスの適正な規模等が規定された法律をみていく。表１はハンガリーの「乳児保育園の生活を組織するための原則」における「クラス編成 Gyermekcsoportok szervezése」の要約と設置基準の表である。

日本の「保育所の設備及び運営に関する基準」(以下，設置基準）には，子ども一人当たりの面積や保育士の数のみが規定されているため，広い部屋にたくさんの子どもと保育者が入れられ，子どもの動きも保育士の視点も煩雑にしているという問題点がある。たとえば，０歳児クラスで15～20名もの子どもを一クラスとして扱い，保育士の努力によって棚等を駆使しエリアを分けてグループ分けをし，保育をしているが，音や視界を遮ることはできないため，保育士も子どももより多くの生活音や子どもの声から影響を受け続けているといった状況である。

ハンガリーでは一部屋当たりの人数が，部屋の広さにかかわらず１部屋12名まで，全員が２歳以上である場合は14名まで，とされており，その理由として次のようなことが挙げられている。第一に，クラスの人数が多すぎることは保育が難しくなる原因であること。第二に，人数が増えることによって，クラスの騒音が強まり，保育士はトラブルの対応や相手への適応の場面が否応なく増える。それにより，保育士が子どもに対して，個人的に接する場面の減ることが予想されるためである。これらの理由を見ても，設置基準における人数の「上限」があることが子どもの育ちや保育士の業務にとって重要な事項であることがわかり，日本においてもこの規定が設けられることが望ましいと考える。

表１　ハンガリーと日本の設置基準比較

	ハンガリー乳児保育園		日本保育園　乳児		
	生後20週～2歳	2歳	0歳	0～2歳	3歳以上
1クラス当たりの子どもの人数	・1部屋に12人 部屋が大きくても12人まで ・全員が2歳になった場合は14人		規定なし		
面積	・保育室　4㎡ ・園庭　10㎡		ほふく室 3.3㎡	乳児室 1.65㎡	保　育　室 1.98㎡
保育士数	６：１	７：１	３：１	６：１	20:1, 30:1

サライ美奈『ハンガリーたっぷりあそび就学を見通す保育』p.104を参考に筆者作成

４．ハンガリーの保育士養成について

前述したように，ハンガリーにおいては０～３歳までの乳幼児保育士と幼児保育士の資格が分かれており，養成課程もことなるものである。ここでは保育士養成について見ていく。

表２は，乳幼児保育士と幼児保育士の養成について表にしたものである。

乳幼児保育士と幼児保育士は，同じ人材省の管轄ではあるが部門が異なり，根拠となる法律が異なっているが，2016年からキャリアパスや身分移行に関しては，幼稚園教諭，小学校等の教員と同等の規定が適用され公的雇用の地位が確保された[14]。保育士養成だけを取り上げてみても，実習時間や適正認定共に，同様の単位数が求められている。これらのことから，養成課程において別の専門性を求められるがゆえに異なる学科で養成され，異なるカリキュラムがあるものの，同等の教育を経てから現場に出ていくさまが見て取れる。

またハンガリーの保育士養成において注目したいのは，資格取得に必要な実習単位数である。日本の保育士養成課程では，実習にかかわる単位数が８単位であるのに対し，ハンガリーでは実習にかかわる単位は30単位である。それに加え，大学を卒業したのちに２年間の研修生として働くことが求められ，この期間はメンターと呼ばれる専門家や経験の多い

表2　乳児保育士と幼児保育士の保育士養成

名称 利用者	乳児保育園（0～3歳未満） Bölcsőde/Nursery 保護者が働いているなど必要に応じて	幼児保育園（3歳～6歳） Óvoda/Kindergarten 1日に4時間以上保育を受けることが義務
資格	乳幼児保育士 csecsemő- és kisgyermeknevelő / Infant and Early Childhood Educator	幼児保育士 Óvodapedagógus/ Kindergarten Educator
管轄	人材省（社会部門）	人材省（公教育部門）
法律	児童保護に関する法律	公教育に関する法律
適正審査	医療適正認定	医療適正認定
Pályaalkalmassági vizsgálat/適性検査…申請者が専門的または専門的な資格に相当する研究を実施し、活動を遂行できる能力と特性を持っているかどうかを判断する能力の検証を意味します。		
資格取得に 必要な単位数	180単位（3年間）1単位30時間	180単位（3年間）1単位30時間
実習単位	実習　30単位	実習　30単位
研修生期間	最終試験合格後,2年間の研修期間	最終試験合格後,2年間の研修期間

「European commission」（https://commission.europa.eu/about-european-commission_en），Eötvös Loránd University（ELTE）ホームページ，https://net.jogtar.hu/jogszabaly?docid=a1600006.emm&timeshift=20170101&txtreferer= を参考に筆者作成

同僚が指導役として配置され，必要であればメンターとの面談を行うことができる。このような制度の下，２年間かけて研修を修了したのち，メンターが研修生の評価を行い，これに合格することによって，一人前として働くことができるのである。筆者がハンガリーに視察に行った際もこの研修期間中の保育士（研修２年目）に話を聞くことができた。保育内容，乳幼児期の発達，わらべ歌や運動等どのような質問に対しても，基本的な知識をもとに自らの意図を交えながら応えていた。日本において新卒の保育士が担任を任されるケースも多く，新人指導の形態も各園によって差があり，相談する相手がおらず抱え込み，それによってバーンアウトする保育士も少なくない。養成校の期間を含め，５年間実習と理論の理解を重ねるハンガリーの養成制度のような仕組みが日本にも必要である。

結果と考察

ここまで，ハンガリーの「乳児保育園基本プログラム」や保育士養成の制度について述べてきたが，これらと日本の現行制度を比較してみると，日本において保育士の資格の専門性について，国家資格化（2001年児童福祉法改正）される，など少しずつ前進はしているが，保育に従事する有資格者の割合に関する規制緩和，保育士養成に関する特例制度など，その専門性が尊重されているとはいい難い状況である。特に乳児の保育となると「育児」と混同されがちで，子育て経験者であれば保育が可能であるかのような風潮も見過ごすことはできない。これらの風潮は，保育士という専門職についての考え方，保育園文化のちがいそのものであると感じる。髙田（2015）はその原因として，戦後の復興のなかで，家父長制的な思想が根強く残っていたことにより，男女平等や児童福祉に関する国家による措置が遅れていること，その間に各地域，各民間施設の努力によって，各施設の文化が築かれてきたことにある(2)ことをあげている[16]。「民間の努力」によって保育がなされていた時代から，保育がより公的なものへと変化していくために日本の保育指針と現実の乖離が今後どのように解消されていくかが問題である。特に子どもの安全にかかわるような部分では，大幅な見直しが求められる。たとえば，日本の保育指針の「乳児保育に関わるねらい及び内容」では，「伸び伸びと体を動かし，はう，歩くなどの運動をしようとする」という記述があるにもかかわらず，日本の保育室の面積基準は国際的にも最も狭いレベルであると指摘されている[17]。表１からもハンガリーの面積基準と比較して，狭いことが顕著に表されている。また，園庭に関して，日本の設置基準では「屋外遊戯場（保育所の付近にある屋外遊戯場に代わるべき場所を含む。）」とされているため，園庭がなくとも認可を受けている保育所が増加し，散歩に出かけることによって成立している。しかしながら，2019年５月に大津市で起きた，散歩中の子どもたちの列に車がつっこみ，児童２名が亡くなった痛ましい事故などに見られるように，安全の確保は大きな課題となっている。対して，ハンガリーの保育所では，子どもを保育時間中に園外に連れ出すことは禁止となっており，保育所にはそれぞれ子どもが十分に体を動かすことができる広さの園庭が，確保されている。ここに，日本の保育指針での「伸び伸びと体を動かし」と現実の乖離が生まれていることがわかる。

今後の課題として，ハンガリーの制度に関する調査が不十分な部分があり，特に保育士資格を取得したのちの研修制度や，７年間で120時間の研修時間の内容などについて，より深く検討する必要がある。また，ハンガリー，日本ともに現在に至るまでの保育の歴史や社会的・文化的背景を踏まえ，日本の保育士資格制度や保育者養成のあり方について，検討していく必要がある。

謝辞

2017年のハンガリー保育視察にて，サライ美奈氏

ら現地コーディネーターの方々の翻訳やサポート，私立保育園連盟のユリア氏により多くの学びを得ました。また帰国後もサライ氏にハンガリーの保育制度についてご教示頂きましたこと，心より感謝申し上げます。

引用文献

1　Marta Korintus (Institute for Social Policy and Labour), “Hungary Early Childhood Education and Care in Hungary: Challenges and Recent Developments International Journal of Child Care and Education Policy”, Korea Institute of Child Care and Education 2008, Vol. 2, No. 2, 43-52

2　サライ美奈（2014）『ハンガリー　たっぷりあそび就学を見通す保育　一人ひとりを大切にする具体的な保育』かもがわ出版，p.127

3　Marta Korintus (Institute for Social Policy and Labour), “Hungary Early Childhood Education and Care in Hungary: Challenges and Recent Developments International Journal of Child Care and Education Policy”, Korea Institute of Child Care and Education 2008, Vol. 2, No. 2, 43-52

4　サライ美奈（2014）『ハンガリー　たっぷりあそび就学を見通す保育　一人ひとりを大切にする具体的な保育』かもがわ出版，p.128

5　Marta Korintus (Institute for Social Policy and Labour), “Hungary Early Childhood Education and Care in Hungary: Challenges and Recent Developments International Journal of Child Care and Education Policy”, Korea Institute of Child Care and Education 2008, Vol. 2, No. 2, 43-52

6　くるみの木教育研究所翻訳『ハンガリー乳児保育園　教育と育児の国規定・基本プログラム2008年』，2012

7　A bölcsődei nevelés-gondozás szakmai szabalyai, Módszertani level, Budapest, 2012 https://mek.oszk.hu/17700/17715/17715.pdf

8　Magyar Bölcsődék Egyesülete（ハンガリー保育園協会ホームページ）「A bölcsődei nevelés-gondozás országos alapprogramja（全国保育基本計画）2020.（1）.」 https://magyarbolcsodek.hu/hu/szakmai-anyagok/tudastar1/ 2023. 1．20閲覧

9　European Commission, Eurydice 12. Educational support and guidance https://eurydice.eacea.ec.europa.eu/national-education-systems/hungary/separate-special-education-needs-provision-early-childhood-and

10　European Commission, Eurydice 12. Educational support and guidance https://eurydice.eacea.ec.europa.eu/national-education-systems/hungary/glossary 2023. 1．20閲覧

11　サライ美奈（2014）『ハンガリー　たっぷりあそび就学を見通す保育　一人ひとりを大切にする具体的な保育』かもがわ出版，p.116

12　European Commission, Eurydice, https://eurydice.eacea.ec.europa.eu/national-education-systems/hungary/quality-assurance 2023. 1．20閲覧

13　サライ美奈（2014）『ハンガリー　たっぷりあそび就学を見通す保育　一人ひとりを大切にする具体的な保育』かもがわ出版，p.75

14　サライ美奈（2014）『ハンガリー　たっぷりあそび就学を見通す保育　一人ひとりを大切にする具体的な保育』かもがわ出版，p.85

15　Wolters Kluwer ホームページ，“326/2013. (VIII. 30.) Korm. rendelet ”https://net.jogtar.hu/jogszabaly?docid=a1300326.kor 2023. 1．20閲覧

16　髙田文子「松島のり子著『「保育」の戦後史幼児保育園・保育所の普及とその地域差』書評」，『幼児教育史研究10（0）』，pp.75-78，2015

17　野澤祥子，淀川裕美，高橋翠，遠藤利彦，秋田喜代美「乳児保育の質に関する研究の動向と展望」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第56巻，2016

(2017発行), p.412

注釈

（1）ハンガリーはモンゴル , トルコ , オーストリアなどの国々の占領下に置かれた期間や , 第二次世界大戦後はソ連による社会主義的影響があり , 様々なルーツを持つ民族や文化が往来した。

（2）髙田は「保育施設の地域偏在を一方的に問題視してきた思考の転換を促している。つまり ,「保育の機会の拡大を支える差」とは , 中央行政が成し得ないがために地域的特性を生かし裁量として取り組んだ形態であるという見方である。」と述べている。